

片野秀俊指揮による

第6回

Amici Del Canto 146

2000.7.29.SAT
TOKYO BUNKA
KAIKAN



●主催＝アミーチ・デル・カント 146 実行委員会

混声合唱団「四季」／ひびき混声合唱団／登戸混声合唱団／混声合唱団リトル・ハーモニー／富士通川崎合唱団
／東京ガスコーラス部／板橋区混声合唱団（有志）／男声合唱団 秀声会／女声合唱団こーろ・えれがんつあ／
女声合唱団コーロ・ファンタジア／女声合唱団アンサンブル・ドルチェ／女声合唱団アンサンブル・ミニヨン

●後援＝東京都合唱連盟／神奈川県合唱連盟／JCDA日本合唱指揮者協会

6th
Amici Del Canto = 146

2000 *july* 29
東京文化会館 大ホール



ごあいさつ

「みんなで歌おう！」これがはじめの一步でした。

1982年5月、アミーチ・デル・カント=146は旗揚げされました。指揮者を同じくする合唱団の、「歌仲間達」の合同演奏会として、6団体146人からのスタートでした。そして、18年が経ち、今では12団体200数十名を擁するまでになりました。その間、5回の演奏会を行い、また新曲の委嘱や東京都合唱連盟理事団体就任等々、個々の団体では実現できなかったような積極的活動を繰り広げて参りました。そうした活動の根本にあったのは、やはり「みんなで歌おう！」の精神だったのではないかと思います。

今年は、折りしも西暦2000年、来年からはいよいよ21世紀。世紀のうつろひに、偶然にも立ち会うことのできる感動を、そして過ぎ去った歳月の思い出を、未来へのあこがれを、本日演奏致します「うた」達のことばを借りて、高らかに歌い上げたいと思います。本日ご来場いただきました皆様や私達の周りの全ての方々に、その想いが伝わることを祈りつつ。

本日はご多用の折り、ご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみください。

アミーチ・デル・カント=146 実行委員会

「想うこと、今」

片野秀俊

そういえば、あれはどこに行ってしまったんだろう。そう思うことがたびたびある。子供の頃、家族が困んで、貧しくても心を通じた丸い卓袱台。梅雨時は毎日のように着て小学校に通った、ゴムで出来たカッパ。木の蓋をのせて、薪で御飯を炊いていた鉄の釜。それから、そうだ、米穀通帳。昭和43年に一組の蒲団と、身の周りの小物を入れたミカン箱ひとつで、恐る恐る都会に足を踏み入れた時、手にさげた風呂敷包みの一番上に大切にそれは置かれていた。あの頃は、まだそれは存在したのだったが。

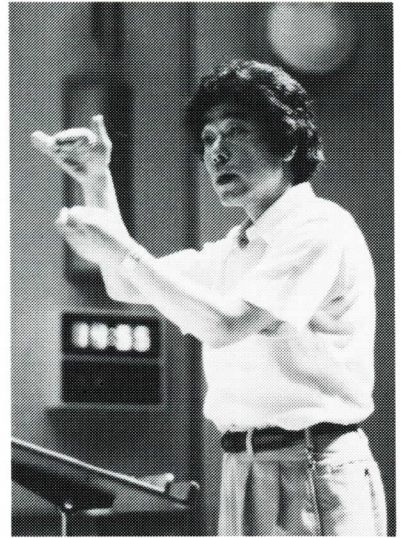
今年は、2000年。新たな世紀を迎えようとする今、日本は、ずいぶん裕福になったのかも知れない。継ぎのあたって服を着ている人もいなくなったし、テレビや冷蔵庫を持たないのは、むしろそれに対する主義主張の人くらいかもしれない。携帯電話、ワープロ、パソコンに代表される機械文明。すべてが便利になり、簡略化され合理化され、……。しかし、そして人間は、人間である心を忘れ、単に人という一個の動物に退化していこうとしている。次々に起る信じ難い凶悪な犯罪、人間である事を自ら放棄し、否定するが如き者達、諸々。そう、誰もが、孤独な時代なのかも知れない。

思えば、20世紀は、科学、機械の発展の上で、人類史上、比類なき躍進の時代であった。しかし一方では、血にまみれた殺戮と略奪の世紀でもあったのだ。アウシュビッツ、広島、長崎、何十何百万の人々の犠牲の上に、私達は、今生きている。生かされている。次の世紀を我々は、どう生きていくべきなのだろうか。今、「地球」は病んでいる。もがき苦しんでいる。地を揺らし、噴煙をまきちらし、怒りに震えている。どうしたら、人類の奢りのために朽ちはててゆこうとする地球、いや、我々自身は救われるのだろうか。貧しくとも豊かだった頃の心を取り戻せるのだろうか。

減反と流通の自由化。あり余る米。毎日、ゴミとして捨てられる膨大な食料。それによって、作り出される汚染と環境破壊。あえて云うならば、この「飽食と墮落の時代」に何かを考えなければならぬと想うのは、私だけではないだろう。

今回、40年ほども以前に創られながら、今も新鮮にそのメッセージを伝えてくれるカウンタータ「土の歌」を、そして、新作「枯れてゆく音」を取り上げたのも、新しい世紀へ向けてのそんな思いがあったからである。それを合唱で歌い上げる。そこに僅かばかりではあるが、真の平和への確固たる魂の叫びと願いが込められればと思う。本日ステージに立つ全ての人々の思いが、その一点に集約され昇華される事を願わずにはいられない。御来場の皆様に心からの感謝を捧げ、歌い合う事のできる幸せを全身に感受しながら。

2000.7.





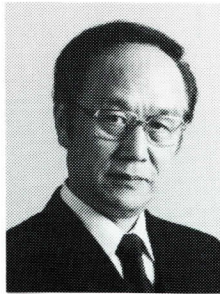
今夕よせて

畑中 良輔

片野君の誠実な棒、そして豊かな音楽性については、以前よりよく知っていたものの、今回《日本合唱協会》の定期演奏会で、小生の振る全部の曲の下ごしらえを彼がしてくれることとなった。「日本の合唱の百年・四つの時代」というタイトルで、四つの時代の差を一夜の中でどのように描き出すか、というテーマである。殊に、最初の新実徳英君の「祈りの虹」は歌唱至難の曲。たった四回の稽古で出来るかと私は大変不安だった。最初の稽古から、なんと、この曲が私の予想を超え、見事に準備されているではないか。片野君は一小節たりといえども一切の手抜きもなく、「祈りの虹」全曲を私に手渡してくれたのである。その妥協のない稽古ぶりはまさに感動的だった。それも機械的に正確一本槍で曲を仕上げているのではなく、生きた人間の音楽として、彼は私に新実君の曲を手渡してくれたのである。その裏にどれだけの忍耐と集中と努力があっただろう。音楽に対する誠実さなくしては成し遂げられない仕事である。合唱に打ち込み、声と声を作り出す"ひびき"の和が、やがて大きな世界を作り、歌う人、聴く人共にひとつの宇宙を作り出し得る指揮者はそんなに多くはない。その中で、片野君の棒は、それを為し得る力を持っていると私は思った。人の心に届く音楽を一このひとつのことが出来るか出来ないか、単にキレイに歌うだけでは、真の合唱の意味はない。

片野秀俊君が、真の音楽を作り出し得る指揮者であることを、今回私は《日唱定期》を通じ、この協働によって確認できたのは、私にとっても大きな収穫であり、よろこびでもあった。

声楽家 畑中 良輔



祝 辞

≡ から ◀ へ

吉彦

オリンピックは4年ごとの開催ですが、それ以上に待たれているのが、3年ごとのこのアミーチ・デル・カント≡146のコンサートでしょう。末尾につく146の数字は、18年前の第1回演奏会に参加したメンバー数とのこと。今回は、その倍にも増えていることでしょうか、恐らくこれは、「初心忘るべからず」の心構えを表現したものだと思います。146人の仲間からスタートしたのだ、という気持ち。これは大事なことです。

18年間の歴史をふり返ってみると、委嘱初演の曲あり、豪華なゲスト出演者のお名前ありで、とても並みのコーラス・グループに出来ることではありません。これは、素晴らしい指導者片野秀俊先生のお力によるものであることはいまでもありませんが、それを支えるアミーチ（仲間）の意欲の結果だと思えます。

とりわけ今回は、オーケストラとの共演のあること、そして東京文化会館大ホールという日本一のホールを使つてのコンサートであることなど、これまたスケールの大きい豪華版です。凄いな、というほかはありません。

≡のコンサートから、さらに<付きのコンサートになることを期待しています。

(株)全日本合唱連盟顧問、音楽評論家 日下部 吉彦



片野秀俊先生とのこと

佐藤 眞

もう10年も前のことになるだろうか。日唱の自作自演のコンサートで拙作「蔵王」を指揮することになり、練習場へ何回か出掛けて行った。なにしろ自作自演で、しかも相手はプロ。言いたい放題、要求したい放題、遠慮会釈なく無理難題を並べたものだ。しかし片野先生はそれを嫌な顔ひとつせず、コーラスと作者の間を巧みに調整して本番が最良の演奏となるよう、さりげなく導いてくれたものだった。

それ以来私は、先生の優れたお人柄と卓越した能力を賛美して止まない。だからその片野先生とアミーチ・デル・カント≡146の皆さんの「土の歌」に寄せる期待が甚だ大きいのは当然というもの。御成功を、いや大成功を祈るや切、切・・・。(本日、佐藤先生は、地球の裏側のペルーで自作の演奏をされながら、当演奏会の成功を祈って下さっています)

作曲家 佐藤 眞

指揮

片野 秀俊

オーケストラ

日本ニューフィルハーモニー管弦楽団

ピアノ

古川佳園 / 北矢由美

合唱

Amici Del Canto ≒ 146

《オープニング》

Cavalleria Rusticana より

Pietro Mascagni 作曲

「開幕合唱—オレンジは薫り」

I 女声合唱曲 MISSA SIMPLEX より

Kyrie

Credo

Sanctus

Agnus Dei

女声合唱団こーろ・えれがんつあ / 板橋区混声合唱団 (女声有志)

II 男声合唱組曲 草野心平の詩から

石家荘にて

天

金魚

雨

さくら散る

草野 心平 作詩

多田 武彦 作曲

男声合唱団秀声会 / ひびき混声合唱団、登戸混声合唱団、東京ガスコーラス部 (男声有志)

III 女声合唱曲 白いうた 青いうた より

南海譜

なまずのふろや

二十歳

自転車でにげる

傘もなく

火の山の子守歌

谷川 雁 作詞

新実 徳英 作曲

女声合唱団こーろ・ファンタジア、アンサンブル・ドルチェ、／アンサンブル・ミニヨン、登戸混声合唱団 (女声有志)

——— 休 憩 ———

IV オーケストラと合唱のためのコラボレーション 「過ぎてゆく光景」より

枯れてゆく音

辻井 喬 作詩

山本純ノ介 作曲

V 合同ステージ

混声合唱のためのカンタータ 土 の 歌 (オーケストラ版)

第一楽章 農夫と土

第二楽章 祖国の土

第三楽章 死の灰

第四楽章 もぐらもち

第五楽章 天地の怒り

第六楽章 地上の祈り

第七楽章 大地讃頌

大木 惇夫 作詩

佐藤 眞 作曲

■ 「MISSA SIMPLEX」より

Andriessen(1892ハーレムー1981)は、オランダの音楽家一族の出で、作曲家、オルガン奏者としての業績と並んで、オランダの音楽界において、教育者としても重要な役割を果たしました。アムステルダム音楽院で作曲と音楽分析を教え、後ユトレヒト音楽院長、ハーグ音楽院長を歴任し、ネイメーヘン大学では音楽史を教えました。息子ユリアーン、ルイをはじめ、門下生を多数残してもいます。

彼は多くのオルガン曲と、「コルディヌ聖下をたたえるミサ」(1917)により、先ず作曲家として注目されました。この作品の際立った特徴は、伝統的なロマン派の手法を用いずに、斬新な手法で歌詞を扱った点です。その後の1925年、ミサ・シンプレックスが作曲され、その音楽は神秘的な深みのある、しかも簡潔なものとなりました。この手法は、オランダのカトリック教会音楽の刷新を先導し、彼がその後作曲した礼拝用作品は、同様な歌詞の取り扱い方と、神を賛美する敬虔な雰囲気によって特徴づけられています。またミサ曲においては、全楽章を単一の旋律的楽想によって構成する循環形式を好んで用いました。

1930年代には、彼のオーケストラ作品も注目されはじめ、1950年代以降は12音技法による作曲も行っています。ミサ・シンプレックス(簡潔なミサ)と名付けられたこの曲は、ミサとしての式文を正しく踏んではいますが、本日はその6曲のうち、Kyrie、Credo、Sanctus、Agnus Deiの4曲を演奏いたします。

■ 「草野心平の詩から」

男声合唱界のヒットメーカーと呼んで良いであろう、多田武彦氏の30歳の時(昭和36年)の作品である。

多田氏は大阪に生まれ、旧制大阪高校在学中に男声合唱を知ってからは、清水脩先生などの励ましを受けながら、独学で作曲を勉強した。昭和29年、23歳の時の処女作「柳川風俗詩」を始め、「中勘助の詩から」、「雨」、「雪明りの路」など、たくさんの男声合唱曲を作り続けている。

草野心平氏は、明治36年、福島県生まれ。「蛙と富士山の詩人」と言われているが、大学での遊学の他、新聞記者、中華民国南京政府の宣伝部員として、しばしば中国大陸を訪れている、大陸の香りのする詩人でもある。

作曲者は、東洋的・観念的叙情詩人である心平の詩風に共感し、この組曲では、詩集「絶景」(第1曲「石家荘にて」が所収)と、詩集「天」(第2曲以下が所収)の中から、幻想的・絵画的な5詩を選んで作曲した。

第1曲「石家荘にて」は、詩人が北支石家荘に立ち寄った時に出会った、茫漠とした平原の中の一都会に生きる月蛾(遊女)の切なく寂しいまでの美しさを中心に描いたものである。

そして、終曲「さくら散る」は、落下の舞の美しさである。作曲者には、「終戦直後に見た、京都嵯峨野小倉山二尊院前の古並木から、一斉に舞い落ちた桜の花への郷愁」と言っている。今にも天井から花びらが舞ってきそうな、能や歌舞伎の舞台の幕開けのような華やかなイメージであろうか。今日の演奏で、その華麗さをどこまで表現できるか。少し不安ではあるのだが……。

■ 「白いうた 青いうた」より

「白いうた 青いうた」は、曲が先に出来、それに詞をつけるというやり方で、十代の年齢層を念頭に作られた歌曲集です。今回は、その中から女声三部に編曲構成された「ねむの木震ふ」「南海譜」「火の山の子守唄」という三つの曲集からそれぞれ二曲ずつ選んで演奏します。

最初に出来た女声合唱曲集「ねむの木震ふ」の巻頭に、作曲者である新実徳英氏のこんな言葉があるのでご紹介いたします。『合唱を楽しむ、これは日本ではむしろ高級な趣味に属するのかもしれませんが。いろいろな楽しみ方があるでしょう。目を三角にして額に青筋をたてて頑張るのも良いでしょう。限界まで声を絞り出し歌い終わったら息も絶え絶え、というのも悪くないでしょう。が、時にはこういった曲でアンサンブルの基礎、音の仕組み、旋律の正しい捉え方、詞と音との関係等、それら大切なことを肩肘張ることなく勉強しつつ、かつ大いに楽しんでいただけたらと願っています』。

また作詞者の谷川雁氏は『世代から世代へ渡される精神的所産の中で、歌曲ほどずしく口中に溶けるドロップはありますまい』と記し、また「白いうた 青いうた」の第一集巻頭には『ちょっぴりジャスミンの香りする節で、こまったような恥ずかしいような、それでも試験がいやなときなど冷たい飲み物より気分転換になる。そんなものをこさえてみたかったのです』とあります。

これらの曲に出会った時、どの歌もなぜか懐かしく、すんなりと心の中に染み入って来るのは、お二人の作者のこうした思いが歌う者にも聴く者にも素直に伝わってくるからなのでしょうか。

■ 「枯れてゆく音」の再演によせて



作曲家 山本純ノ介

私は合唱作品と縁が深い。高校生の頃、高田三郎の「ひたすらな道」、團伊玖磨の「筑後川」、佐藤眞の「早春」などを良く歌っていました。

当時、作曲家を志し、現代邦人作品を毎日のように聞いていたのですが、その先がけとなったのが、ラベルの「ダフニスとクロエ」、オルフの「カルミナブラーナ」、ストラヴィンスキーの「詩篇交響曲」等といった管弦楽に合唱が加えられたものでした。その頃にカンタータ「土の歌」をはじめて聞き、大きな勇気を与えられた事を覚えています。それは管弦楽作品といった西洋の器の中で日本語の歌詩をテキストとしたものでも、西洋の古今の名曲と十分に渡り合え表現し得ると直感し、確信したことです。あの頃から、ピアノ伴奏ではないオーケストラ伴奏による合唱作品を一曲は作りたいと決意していたようです。

その縁の深い楽曲が、本日同じステージで演奏されるのは、私にとって大きな喜びです。

楽曲は、管弦楽と合唱とのコラボレーション（協同作業）という形を取ります。

管弦楽による無調中心の厳しい表現の響きと、合唱によって歌われる柔軟な調性的な響きとが、対峙して提示されます。過去を走馬灯のようにノスタルジックに回想しながら歌いすすまれ、徐々に調和のとれた音楽が中心となります。人は、死の瞬間に一生を思い起こすようですが、全体の着想は、その一瞬を表現してみようと思いました。

人間の苦しみは限りなく流れゆく欲望にとらわれることから始まると言われますが、それぞれの人生というコラボレーションが、安らかな死によって終焉を迎え、様々な苦しみから解放されるように、曲は長三和音の響きに終止して静かに閉じられます。

■ 「土の歌」

日本の合唱作品の中でも名作として挙げられるであろうこの組曲は、日本ビクターの委嘱により佐藤 眞 が1962（昭和37）年、東京芸大専攻科在学中に、大編成オーケストラと混声合唱のためのカンタータとして作曲されたものである。

この組曲は全7楽章から成り、終曲の「大地讃頌」はアンコールとしての単独演奏の他、卒業式や校内合唱コンクールなど教育現場でもよく歌われている名曲である。もともとオーケストラ伴奏として書かれた作品でレコード出版したが、その後、ピアノ版編曲への声が多数あり、編曲後は合唱をやっている人達に広く親しまれるようになった。

詩は、広島県出身の詩人で児童文学作家の大木惇夫によるもので、当時宮中歌会始めの御題「土」に因んで書かれたものである。

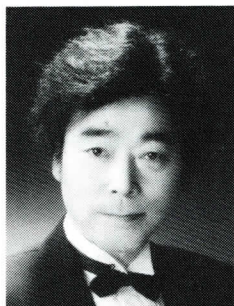
我々にとってかけがえない大地に平和への祈りが込められている。人類が誕生し、人間は自然の恩恵をおしみなく受け生きている。我々が自然に逆らい、勝手な振舞いをするのがあっても大きく包み込んでくれ、許し、再び美しく豊かな恵みを与えてくれる。

時に自然は怒り荒れ狂う事もあるが、それは当然の本来持つ姿であり、その時、自然から与えてもらうばかりで感謝の気持ちを忘れていた人間に、考える時を下さっているのではないだろうか、……未だ世界のそこ・ここで、戦争という醜い争いの為に自然の恩恵に感謝する気持ちを持ってない人々がたくさんいる。これは哀しむべき事であり、辛く切ない事である。

もうすぐやって来る新世紀に向けて我々が望む事は、世界の全ての人々がこの地球上に生命を受け、自然の恩恵を受ける事に喜びを感じられる時代になって欲しいという事である。

この事を強く願いつつ、祈りを込めて演奏いたします。

指揮者 片野 秀俊



東京声専音楽学校卒業。日本合唱協会で長年にわたり音楽監督を努めた山田一雄氏（現在、永久名誉音楽監督）の薫陶を受け、1985年、日唱の指揮者に就任して指揮者界にデビューする。日唱定期演奏会、特別演奏会、その他を指揮するとともに、同団メンバーを伴って全国各地で演奏活動を行う他、NHK・TV「名曲アルバム」出演、NHK・ラジオ第2及びNHK・FM「みんなのコーラス」のレギュラー解説者を続け、音楽雑誌への執筆も行っている。一方、アマチュア合唱団の育成にも力を注ぎ、各団の音楽監督、常任指揮者を努め、各団を統合した「アミーチ・デル・カント≒146」を1982年に結成。3年ごとに演奏会を開催している。全日本合唱コンクール、NHK音楽コンクール全国大会他の審査員。東京、神奈川、千葉、埼玉他各地合唱祭講師、合唱講習会講師。

現在、日本合唱協会主宰ならびに指揮者。日本演奏連盟会員。東京都合唱連盟副理事長。神奈川県合唱連盟個人会員。神奈川県芸術文化人協議会委員。日本合唱指揮者協会会員。指揮法を山田一雄、ヘルムート・リリング、若杉弘、飯守泰次郎、荒谷俊治、の各氏に、演奏法を平井康三朗、清水脩の各氏に、声楽を下八川圭祐、天野秋雄、芳野靖夫の各氏に師事。福島県いわき市出身

日本ニューフィルハーモニー管弦楽団



1979年「音楽を通じての人間教育」という理念に基づき、その趣旨に賛同するわが国楽団のベテラン・プレイヤーと新進気鋭の演奏家によって結成。NHKはじめ各局で「最新のオーケストラ」として取り上げられ、脚光を浴びるとともに大きな反響を呼んだ。1979年3月の第1回定期演奏会を皮切りに、テレビ朝日「題名のない音楽会」、テレビ東京「真夏のコンサート」、二期会オペラ、バレエ、第九交響曲などに出演するほか、数多くの青少年コンサートを行っている。

ピアニスト 古川佳園



武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒業。栗田和雄、佐藤倫子の各氏に師事。

東京にてジョイント・コンサート開催（1980年）。日本合唱協会のピアノ伴奏（1979～82年）。劇団俳優座公演「食肉市場のジャンヌ・ダルク」（1982年）、「肝っ玉おっ母とその子供たち」（2000年）にて、ピアノ演奏。NHK学校放送、合唱資料センター、日本バッハ・アカデミー等にて、ピアノ担当。

ピアニスト 北矢由美



愛媛大学教育学部特音（ピアノ専攻）卒業。東京学芸大学大学院修士課程（ピアノ専攻）修了。大学在学中より、ソロ・伴奏活動を始め、ウィーン楽友協会大ホールにおける演奏会等に出演。1990年から1995年まで日本合唱協会

専属ピアニストを務める。1997年より度々渡独し、1999年3月、ドイツ国立カールスルーエ音楽大学特別演奏コース修了。これまでに、東京、愛媛、カールスルーエでソロリサイタルを開催。

野平一郎、韓伽倻の各氏に師事。日本女子大学非常勤助手（ピアノ）。

混声合唱団「四季」

四季の生い立ちはすでに神代に属する古い話で、このアミーチの中では名実（いや、実の方はというと…。）共に、片野先生に最初に指導いただいた合唱団としてお兄さん格を自負しています。筆者K自身入団後20年以上経ち、美貌の某最高幹部共々四捨五入すると不惑ではない方の年齢になってしまいましたが、団の居心地の良さは格別で、偕老同穴の心境になっています。

来年の定演では、あろうことか天下の名曲、フォーレのレクイエムに挑戦。筆者が地方に単身で赴任した折は、何を思ったか毎日この曲を聞いていた思い出があります。まさに天上の音楽でもあるこの名曲を皆さまも是非ごいっしょにいかがでしょうか。

練習：毎週木曜 19:00～21:00

会場：駒込社会教育会館

連絡先：03-3822-2566（柴田）



ひびき混声合唱団

1976年創団以来24年を迎えました。結成当初より片野先生と苦楽を共にし、また団員個々人の強い個性とこのうえない情熱によって今日まで歌い続けております。昨今、音楽性の幅を拡大させるべく新たな息吹を求め、新しいジャンルへの挑戦も旺盛であります。しかしながら、いつの時も温故知新の心を忘れることなく、過去10回の定期演奏会、コンクールの成果等その時々を構成したメンバーが思いをひとつにしてつくりあげたものを財産とし、より充実した合唱を求め続けて参ります。初心を忘れることなく新しい団の想像と創造を追求すべく志をともにする団員を募集しております。

練習：毎週土曜 18:00～21:00

会場：新代田出張所

連絡先：03-5382-8504（釜我）



登戸混声合唱団

このコンサートが終わると、地域の区民祭、コンクール、そして、年末恒例となった登戸混声合唱団チャリティ「ひとひらのあいコンサート」と続きます。（12月17日・川崎市多摩市民館・今年で13回目になります）

また、ここ数年海外公演も定例化しつつあり、これまでアメリカ・フランス・イタリアで、それぞれ大感激の親善公演を行ってきました。

こんな活動をしている私たちと一緒に歌ってくださる意欲的な方、大歓迎!! 基礎から本格的な指導をしてくださる"ステキな片野先生"と"心あたったかいメンバー"がお待ちしております。

練習：毎週火曜 19:00～21:00

会場：多摩市民館

連絡先：03-3430-5168（根村）



混声合唱団 リトル・ハーモニー

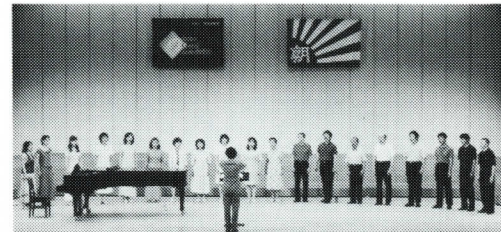
日曜日の黄昏時、日暮里駅の改札を抜け階段を下り、そこに待ち受けているホテルのティッシュ、韓国アカスリの割引券を何気なく受取り、駅を背にして歩くこと5分「ひろば館」にたどり着く。さて、練習後は、体調不良の者と翌朝早い者を除き、飲み屋へ直行。我がリトル・ハーモニーはアットホームな団体だが、プライバシーには必要以上に首をつこまぬ、言わば大人の集団といえる。人生の苦渋をなめつくした先輩諸氏がそろっているの、求めさえすればアドバイザーには事欠かない。

ところで、練習風景を書くスペースがない……。知りたい方は見学大歓迎なので、いつでもどうぞ!

練習：毎週日曜 18:30～21:00

会場：荒川区立日暮里ひろば館

連絡先：03-3431-2821（東谷）



富士通川崎合唱団

富士通川崎合唱団は、1947年（昭和22年）に富士通川崎工場を拠点として活動する混声の職場合唱団として結成されました。現在の団員数は33名です。富士通式典での社歌合唱や社内コンサートでの演奏の他に、片野先生のご指導のもと社外での活動にも力を入れています。最近では、全日本合唱コンクールと2年に1回程度の演奏会とを活動の柱とし、各種合唱祭にも参加しています。目下のところ、今年9月の全日本合唱コンクール東京支部大会を一つの大きな目標としてブランクとロッシェニの作品に取り組んでいます。富士通グループからの新入団員を随時募集しています！

(<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Theater/2100>)

練習：毎週水曜 18:00～20:30

会場：富士通川崎工場内

連絡先：044-754-2671（富士） fuji@flab.fujitsu.co.jp



東京ガスコーラス部

戦後まもなく、職場のあちこちに歌声が響いた時代に創部されて早50年以上。現在わが部が誇る財産は三つあります。第一は、厳しくも暖かい指導の片野先生とピアニスト兼ヴォイトレまでやってくださる矢野令子先生。第二は、在部40年を越す重鎮の西尾さんを中心に、3人以上揃ったら練習を開始し、みんなで他パートも歌い合っとなんとかしてしまう自主性&協調性。そして第三が、ここ数年、毎年平均年齢が下がっていく程、新人が増加中という点。友が友を呼ぶ歌仲間の増大、まさにAmici del Cantoの状況です。当部自慢のホームページをご覧ください、ぜひ、ご一緒しませんか？

(<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/gi11927/chorus/>)

練習：毎週金曜 19:00～21:00

会場：東京ガス本社 2F 大会議室

連絡先：03-5400-7555（橋本「職場」）



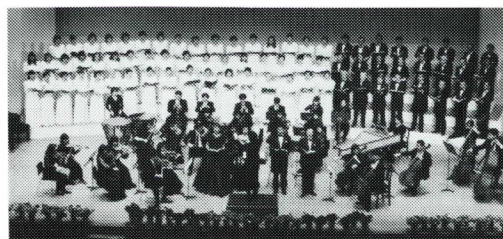
板橋区混声合唱団（有志）

1979（昭和54）年に板橋区による合唱団として発足。音楽監督外山浩爾、常任指揮者片野秀俊という素晴らしい指導環境のもと、区在住・在勤・在学の老若男女81名で、ルネッサンス、古典、現代邦人曲、ミュージカルナンバーetc. と幅広いジャンルの合唱を楽しんでいます。活躍の場も毎年の定期演奏会のほか、区の行事への参加、テレビ・ラジオ出演、内外への演奏旅行など様々。今は当面の目標を10月の都民合唱コンクールにおいて、日夜練習に励んでいます。アミーチには有志のみ参加ですが、せいっぱい美しいハーモニーを響かせられたらと願っています。

練習：毎週水曜日 18:30～21:00

会場：板橋区文化会館リハーサル室

連絡先：03-3579-2222（板橋区文化振興財団）



男声合唱団 秀声会

秀声会は片野秀俊先生の「秀」の字をいただき、1982年にアミーチの男声パートが集まり発足。以来、片野先生には根気良く、ご指導いただいております。1年前までは月に1回の練習でしたが、より高度な合唱をと団員からの声もあり2ヶ月に3回と練習回数を増やしました。その甲斐あって昨年の東京都合唱コンクールでは銀賞を受賞。昨年3月には、オペラシティにおいて第3回演奏会を行うことができました。今年は、アミーチ演奏会、都合唱祭、都コンクール、中学校でのミニコンサート等の行事がありますが、どのステージも精一杯、観客の方々の心に残る歌を歌おうと思っております。

練習：日曜日（月1～2回）/午後・3時間

会場：若草寮

連絡先：03-3376-4711（柴）



女声合唱団 コーロ・えれがんつあ

片野先生はおっしゃいます。"声は若くなっている。透明感もあって……" あたたかいお言葉に励まされて、ア・カペラの楽しさ難しさにひたっている昨今。

多くが家庭優先の専業主婦、舞台に立つことが大変な経験でしたのに。団の定期演奏会、コンクール、テレビ、NHK、FM、チャリティ、海外演奏と恵まれた活動が続きます。先生は一人一人の声をみつめ、磨きをかけて音楽を創造する喜びを引き出して下さいます。

うたうことは折ること。うたい続けて21年、嬉しいこと悲しいこと、さまざまな人生模様、ますますそんな思いがいたします。

練習：毎週金曜 10:00～12:00

会場：南大塚社教・雑司が谷社教

連絡先：042-573-9524 (嶋田)



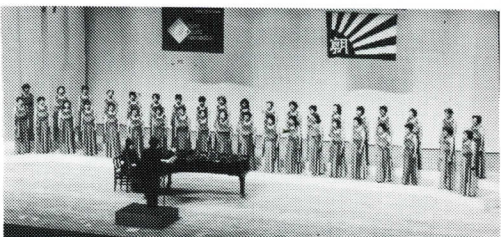
女声合唱団 コーロ・ファンタジア

1981年に結成した我が団も来年は20周年を迎えます。きめ細やかで熱心に御指導して下さる片野先生、感性豊かな美しいピアノで支えて下さる古川先生のお蔭でここまで成長することが出来ました。毎年、おかあさんコーラス大会、多摩区民祭、コーラルフェストかわさき等に出場しています。心のハーモニーを大切に、瑞々しく透明感のあるハーモニーを目指して練習を重ねています。本日の女声合同演奏では、単独演奏とは異なった新たなハーモニーをお聞かせできることと思います。アミーチ演奏会ならではの企画に、心楽しく歌いたいと思います。団員募集中。と一緒に歌いませんか？

練習：毎週火曜 9:45～12:00

会場：多摩市民館

連絡先：044-954-7452 (久米)



女声合唱団 アンサンブル・ドルチェ

片野先生の熱心なご指導を仰いで9年目に入りました。発声に時間をかけての練習が徐々に身につく、特にア・カペラ曲の「ハモッタ」時の幸福感が忘れられず練習に励んでおります。

昨秋は念願がなつてファーストコンサートを開くことができ、そこで得た感動は、私達に次のステップへの目標を与えてくれたような気がいたします。今日は混声合唱曲に全員で参加できないのが残念ですが、女声合唱曲は、揃って新実先生の作品に取り組みました。

発語に気をつけて、日本語を美しく響かせるように歌いたいと思います。

団員募集中！一緒に歌いましょう。

練習：毎週火曜 15:00～17:00

会場：相模大野南公民館

連絡先：042-742-5407 (西村)



女声合唱団 アンサンブル・ミニヨン

約20年続いている暮れの相模原市民合同演奏会に「ドイツ・レクイエム」で御指導いただいた片野先生に是非にという人達のグループで、去年1月に発足しました。秋の市民合唱祭には、46団のトップの市長賞を思いがけずいただき、月2回の練習ならではの真剣さが好評を得たように思えます。まだまだ基本の声づくり、音楽づくりの段階ですが、創立3周年にはファーストコンサートを開催したいと、目標を決めたところです。ミニヨンとは愛らしいという意味だそうで、気恥ずかしい思いもありますが、心に響く音楽を目指して頑張りたいと思います。現在24名。団員募集中です！！

練習：木曜(月2回) 10:00～12:00

会場：相模大野南公民館

連絡先：042-747-2184 (加藤)



Amici Del Canto ≡ 146 (アミーチデルカント≡146) の歩み

1982 (昭和57) 年に片野先生を指導者とする合唱団が集まって合同演奏会を開催した事がきっかけとなって、互いの親睦と研鑽・交流を深めるために集まっている団体(連合体)です。第1回の参加人数が146人だったので、それをスタートに「146人の歌仲間」と名づけられました。

委員長: 菊井 勝也 (富士通)
 代表: 橋本 俊幸 (東京ガス)
 事務局長: 根村 道子 (登戸混声)
 会計: 東谷 成雄 (リトハモ)
 書記: 久米 博子 (ファンタジア)
 委員: 望月 裕子 (四季)
 釜我 利彦 (ひびき)
 吉田ヒサ子 (登戸混声)
 富士 秀 (富士通)
 松井利重子 (板橋区)
 柴 三 義 (秀声会)
 結城 章夫 (")
 長 嶋 勝 (")
 嶋田美美子 (えれがんつぁ)
 根岸 圭子 (")
 田中テル子 (ファンタジア)
 西村由紀子 (ドルチェ)
 宮坂 郁子 (")
 加藤 弘子 (ミニヨン)
 稲垣 厚子 (")

- 1982年5月16日 第1回演奏会
 於=日本教育会館 6団体出演
 合同演奏
 混声合唱組曲「旅」より「行こう ふたたび」
 混声合唱組曲「土の歌」より「大地讃頌」
- 1986年2月11日 第2回演奏会
 於=郵便貯金ホール 9団体出演
 合同演奏
 2台のピアノによる混声合唱組曲
 「筑後川」日本初演
 ★特別出演 小林秀雄 (曲集「落葉松」ピアノ伴奏)
- 1989年7月9日 第3回演奏会
 於=郵便貯金ホール 10団体出演
 女声合同演奏
 女声合唱組曲「蝶」
 男声合同演奏
 男声合唱組曲「富士山」
 合同演奏
 オーケストラによる混声合唱組曲
 「川よとわに美しく Part 2」
 ★特別出演 三枝成彰 (お話)
- 1993年2月14日 第4回演奏会
 於=東京芸術劇場 11団体出演
 合同演奏
 2台のピアノによる混声合唱組曲
 「カムイチェブ」～神の魚～ 改訂委嘱初演
 ★特別出演 永井浩・柳田孝義 (お話)
- 1996年7月14日 第5回演奏会
 於=昭和女子大学人見記念講堂 11団体出演
 合同演奏
 混声合唱組曲「二十億光年の孤独」委嘱初演
 ★特別出演 谷川俊太郎 (詩・「二十億光年の孤独」朗読)
- 2000年7月29日 第6回演奏会
 於=東京文化会館 12団体出演
 合同演奏
 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」(オーケストラ版)
 ★共 演
 日本ニューフィルハーモニー管弦楽団

